

2020年度 第2四半期決算概要

2020年11月9日
デンカ株式会社

1. 業績

(単位:億円)

	2020年度 第2四半期実績 (4-9月)	2019年度 第2四半期実績 (4-9月)	増 減	2020年度 通期予想 (4-3月)	2019年度 通期実績 (4-3月)
売 上 高	1,603	1,920	△ 317	3,500	3,808
営 業 利 益	121	153	△ 33	330	316
経 常 利 益	123	145	△ 22	300	300
親会社株主に帰属する当期純利益	100	109	△ 8	220	227

2. 総括(前年同期比)

・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力いたしました。

・当第2四半期は、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格を改訂したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、一部の主要製品で低調な出荷となりました。このため、売上高は317億円減収の1,603億円(前年同期比16.5%減)となりました。

利益面においても、感染症の影響により、クロロプレンゴムや検査試薬など一部の主要製品において、当初の想定を上回る影響がありました。一方で、xEV関連を中心に球状アルミナの出荷が好調に推移し、5G関連やデータセンター需要の世界的な拡大により電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルム、半導体封止材向け溶融シリカフィラーなどの半導体関連製品の出荷が前年を上回るとともに、インフルエンザワクチンの出荷時期が早まりました。また、新型コロナウイルス抗原迅速診断キット“クイックナビ™-COVID19Ag”の販売を8月に開始しております。加えて、本社費・工場固定費の減少も寄与しました。

以上の結果から、営業利益は前年に比べて33億円減益の121億円となりました(同21.4%減)。経常利益は123億円(同15.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は100億円(同7.8%減)と、それぞれ前年比減益となりました。

・第3四半期以降は、新型コロナウイルスの影響を受けたクロロプレンゴムなど一部主要製品の需要が回復基調にあるものの、通期では販売が当初予想を下回る見通しです。その一方で、抗原迅速診断キットをはじめとしたスペシャリティー製品の伸長ならびに需要回復やコストダウンなどを織り込み、通期の予想営業利益は前年度を上回る330億円を見込みます。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2020年度 第2四半期実績	2019年度 第2四半期実績	増 減	2020年度 通期予想	2019年度 通期実績
投 資	171	189	△ 18	450	369
減 価 償 却 費	115	110	4	230	225
研 究 開 発 費	74	73	2	160	150
有利子負債残高	1,405	1,233	172	1,410	1,343

	2020年度 第2四半期実績	2019年度 第2四半期実績
為替レート [円/\$]	106.8	109.2
国産ナフサ [円/k]	28,250	42,800

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、TVやモニターの導光板用途などでMS樹脂の販売は堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、自動車産業を中心に全般的に生産活動が停滞したことから、クロロプレンゴムの販売数量が前年を下回り、大幅な減益となりました。
第3四半期以降は、クロロプレンゴムの需要は回復基調ですが、前年比では通期で減益の見通しです。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、改定した価格の維持が寄与しましたが、感染症の影響により、セメントや特殊混和材、肥料、耐火物・鉄鋼用材料の販売数量が前年を下回ったことなどにより減益となりました。
第3四半期以降も、改定した価格の維持に努め、通期では前年比増益を目指します。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け熔融シリカファイバー、またxEV関連の球状アルミナの販売が前年を上回り、増益となりました。
第3四半期以降も、xEV関連製品の需要の伸長が見込まれることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、感染症の影響などにより、プラスチック雨どいおよび合繊かつら用原糸“トヨカロン”、工業用テープの販売数量は前年を下回りましたが、テイクアウト需要の増加により、食品包材用シートおよびその加工品の販売は概ね堅調に推移し、原材料価格の下落や固定費削減が寄与したことなどにより、前年比増益となりました。
第3四半期以降も、同じような状況が続く見通しであることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・ライフイノベーション部門は、感染症拡大の影響で、検査件数の減少や健康診断の実施を控える動きがあったことなどから、検査試薬の販売が前年を下回りました。また研究開発費などの先行投資は増加しました。その一方、インフルエンザワクチンは出荷時期が早まったことから販売が前年を上回り、加えて、8月に新型コロナウイルス抗原迅速診断キット“クイックナビ™ -COVID19 Ag”の販売を開始したことで、第2四半期の営業利益は、概ね前年並みとなりました。
第3四半期以降は、インフルエンザワクチンの販売は通期で前年並みを見込んでおり、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットなどの寄与を織込んだ結果、前年比増益の見通しです。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2020年度 第2四半期実績	2019年度 第2四半期実績	増 減	2020年度 通期予想	2019年度 通期実績
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	546	787	△ 241	1,150	1,493
	営業利益	21	69	△ 48	30	109
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	245	269	△ 25	520	548
	営業利益	2	3	△ 1	5	3
電子・先端 プロダクツ	売上高	333	335	△ 2	700	680
	営業利益	66	58	8	130	124
生活・環境 プロダクツ	売上高	166	186	△ 20	330	370
	営業利益	5	△ 2	7	10	1
ライフ イノベーション	売上高	162	150	12	460	355
	営業利益	24	25	△ 1	150	70
その他 消去差	売上高	152	192	△ 40	340	362
	営業利益	3	2	2	5	9
合 計	売上高	1,603	1,920	△ 317	3,500	3,808
	営業利益	121	153	△ 33	330	316

連結売上高増減	売 上 高				
	2020年度 第2四半期実績	2019年度 第2四半期実績	増 減	増 減	
				販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	546	787	△ 241	△ 119	△ 122
インフラ・ソーシャルソリューション	245	269	△ 25	2	△ 27
電子・先端プロダクツ	333	335	△ 2	△ 5	2
生活・環境プロダクツ	166	186	△ 20	△ 5	△ 14
ライフイノベーション	162	150	12	△ 1	13
その他	152	192	△ 40	-	△ 40
合 計	1,603	1,920	△ 317	△ 128	△ 188

連結営業利益増減	営 業 利 益					
	2020年度 第2四半期実績	2019年度 第2四半期実績	増 減	増 減		
				販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	21	69	△ 48	△ 119	△ 57	128
インフラ・ソーシャルソリューション	2	3	△ 1	2	△ 7	4
電子・先端プロダクツ	66	58	8	△ 5	6	7
生活・環境プロダクツ	5	△ 2	7	△ 5	△ 6	19
ライフイノベーション	24	25	△ 1	△ 1	12	△ 11
その他、消去差	3	2	2	-	1	0
合 計	121	153	△ 33	△ 128	△ 52	147